
ポーリーの冒険

玲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポーリーの冒険

【著者名】

玲

N4281M

【あらすじ】

この話は、ポーリーといつ15歳の青年が仲間と共に魔王を倒そうとする話です。

プロローグ（前書き）

この小説は、僕が初めて書いた小説です。読みずらいとは思いますが、よろしくお願いします。

プロローグ

「もうダメだ、、、、」

俺はいま、絶体絶命の状態だ。ドラゴンと戦っているからだ。もちろん、戦っているというだけではピンチにはならない。今の俺の状態は、剣が中程で折れてしまっている。防具は壊れて脱ぎ捨てているという状態だ。

なぜそんな事になつたのかというと、防具は後ろからいきなりドラゴンに燃やされたのだ。熱くなつたので脱いだ。俺、驚いた。そしてドラゴンに腹がたつた。

「後ろから攻撃なんて卑怯者め！－！だいたい俺がなにしたってんだよ！－！」

そんな感じの事を言つていたら、ドラゴンが突進してきたのだ。いきなりだつたから避けられなかつたが剣でガードしてみた。しかしガードの事なんか考へない剣なのでそんな攻撃ガードしきれる訳がない。とりあえず俺は無事だつたが、剣は真ん中で真つ二つになつてしまつた。

そして、そんな状況説明をしている場合じやなかつた。殺氣が来るので後ろを振り返ると田の前にドラゴンがいるではないか。もちろん俺は、恐怖で動けなくなつた。そんな俺を見て、ドラゴンは特大の火を吐いた。

「うわあああああ！－！－！」

俺の意識はそこでなくなつた。

プロローグ（後書き）

読んでくれてありがとうございました。感謝がござります。

感想があつたら、何でも言つて下さい。よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4281m/>

ポーリーの冒険

2010年10月8日22時15分発行